会議結果報告書

1　会議名	ごみ処理に関する課題についての意見交換会（柳島自治会）
2　日時	平成30年6月26日（火）19：00～20：30
3　場所	柳島自治会館
4　出席者	（資源循環課）森岡副主査、水本主事 （環境事業センター）加藤所長補佐、三橋技能労務主任、加茂主事 （柳島自治会）参加人数：35人
5　内容	本市のごみ処理に関する課題について意見交換会を実施した。会議の主な質問と意見は次のとおりであった。 ●柳島のごみ集積場所では、燃やせないごみの日に、ごみを持ち去っている人がいる。袋に入れてあったものを、袋から出し、袋をそのままに散らかしていく。口頭で注意しているが、そういう人が非常に多い。自治会でも見回りをしているが、市でも対応してもらいたい。 ●市民に負担をかけることになるかもしれないという話は良くわかったが、市としてはゴミの減量についてどのようなビジョンを持っているのか良くわからない。 →市の取り組みとしては、組成分析の結果から、特に紙類について注力をして分別をすることでごみの減量・資源化を図っていきたいと考えている。これまで周知不足であったこともあるので、今までやっていない周知方法も考えて啓発していくことを考えている。 ●今日の説明は、お金がかかるから市民に負担してくれという話。生ごみは基本的には優良な肥料になる。コストをかけて燃やすのではなく、同じコストをかけるならば、堆肥化という付加価値を付けて、それを循環させて農家と市民と学校がつながるような仕組みを考えてもらいたい。 ●有料化を導入した場合、有料袋以外の袋で出されてしまうということが考えられる。有料袋以外の袋で出した場合は、だれが片付けるのか。集積場所を使っている人が片付けるとなると、一層負担になるのでないか。また、戸別収集を導入した場合、先行市で鳥獣問題の事例はないか。また、生ごみの減量のために市ではコンポストの購入費助成をしているが、使用開始後に必要となる薬剤についてはかなりのコストがかかる。それについては市はどのように考えているか。 →不法投棄について、藤沢市でも導入当初は多分にあったと聞いている。事前の周知等対応を取っていく必要があると考えている。また、戸別収集における鳥獣対策については、戸別収集になったからといってカラス被害がなくなるわけではない。戸別収集では、各家庭でごみ袋をポリバケツなどに入れて鳥獣対策をしているのが現状である。また、コンポストの薬剤の購入費については、利用者にご負担いただいているが、

	現在、市では新たに補助制度を作ることが難しい現状であることをご理解いただきたい。 ●戸別収集について、アパートなどの集合住宅は専用の集積場所を作ってそこに出さなければならないと思うが、出し忘れや後出しがあった場合、市はどのように対応するのか。 →戸建てについては玄関先まで回収に行くが、集合住宅に関しては、既存の集積場所や、現時点で集積場所がない場合は新たに設けてもらうことを想定している。その点をふまえると、集合住宅については戸別収集はあまりメリットがないと言えるかもしれない。戸別収集について、先行市の事例を話すと、導入当初コールセンターを設け、収集忘れや後出しについて対応できる範囲で対応したと聞いている。茅ヶ崎市においてもそのような対応の検討が必要であると考えている。 ●戸別収集が始まったら、直接管理会社やアパートのオーナーにごみ出しについて指導することはないのか。 →現在においても、ごみの出し方について管理会社などに話をすることもあるので、収集方式が変わっても、その点はかわらないと考えている。 ●草むらは不法投棄の温床となってしまう。不法投棄をするのは、１００人に２人か３人ぐらいの話だと考えていたらとんでもない。その２人か３人が起こす行動が善良な市民にとって迷惑であり、負担となっている。どう対処したらよいか、市としても視点を変えて考えてもらいたいと思う。 ●よその地域からの不法投棄が多い。先行市の自治体でごみが減ったというが、減ったごみはどこに行ったのか検証して欲しい。戸別収集にならない限り、不法投棄はなくならないと思う。市は、通達・通知だけすれば皆ルールを守ると思ったら間違いである。 ●藤沢市は、戸別収集でごみの減量に成功したことは理解したが、戸別収集だとそれだけパッカー車を走らせることになる。それにより、子供を巻き込んだ事故などがないか次回の説明会のときに教えてもらいたい。また、茅ヶ崎市に転入された方に、ごみの出し方についてしっかりと説明して欲しい。 →戸別収集については現在検証中のため、事故については把握していない。そのことは、今後の検証の対象とさせてもらいたい。また、転入された方には分け方出し方やカレンダーをお渡ししているが、ご意見の通り周知の徹底がされていないので、今後強化していきたいと考えている。 ●戸田市の例を紹介すると、戸田市では市民にバケツを無料で配布し、バケツにため

	た生ごみを施設に持ってきてもらう。それを、堆肥で育てた２鉢の花と交換している。その花を育てているのは障害者であり、障害者の就業施設にもなっている。花のほかに、堆肥を使って他市の農家で野菜を作ってもらい、それを戸田市で販売し、戸田市民が購入している。このように循環させることを茅ヶ崎市も考えてみてはどうか。 以上